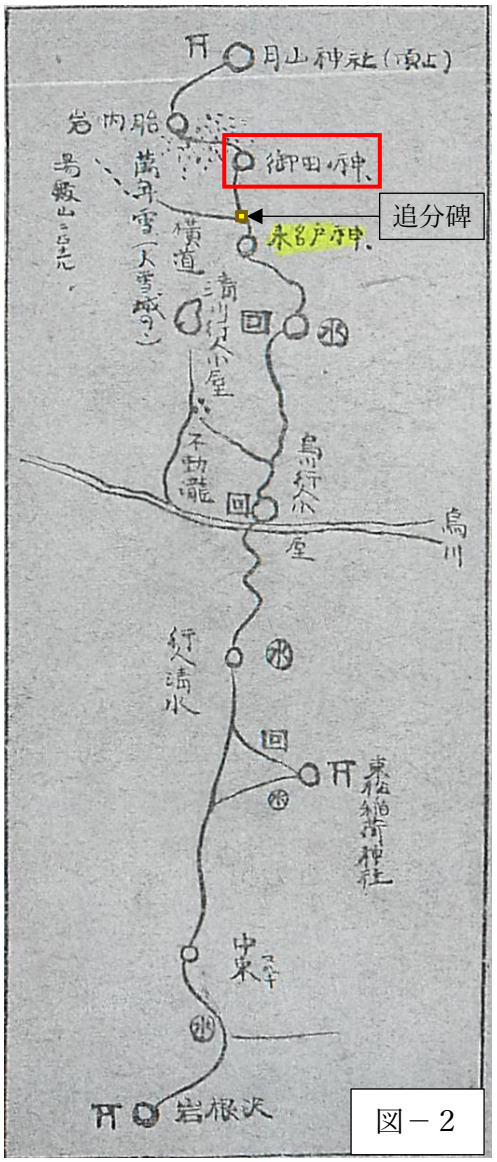
第２巻　第８章　「御田の神」

原田一男著「月山登山案内」から図(表)－1・2に抜粋する。

図(表)－１
・・・「手盡し」（急坂）に会う、急坂で手を盡して上らなければならぬのでこの名が起こった。・・・上り詰めて平坦な所に「来名戸神」の安置せられている処に出る。神霊の気分になって頂上へと向かう途中に「**御田の神**」の安置されている草木帯に出る。この處から灌木帯が過ぎて高山のお花畠の草木帯だ。この處で五穀豊穣を祈って頂上へと進むと途中本道寺からの登山口（高清水通り）に会う。・・・

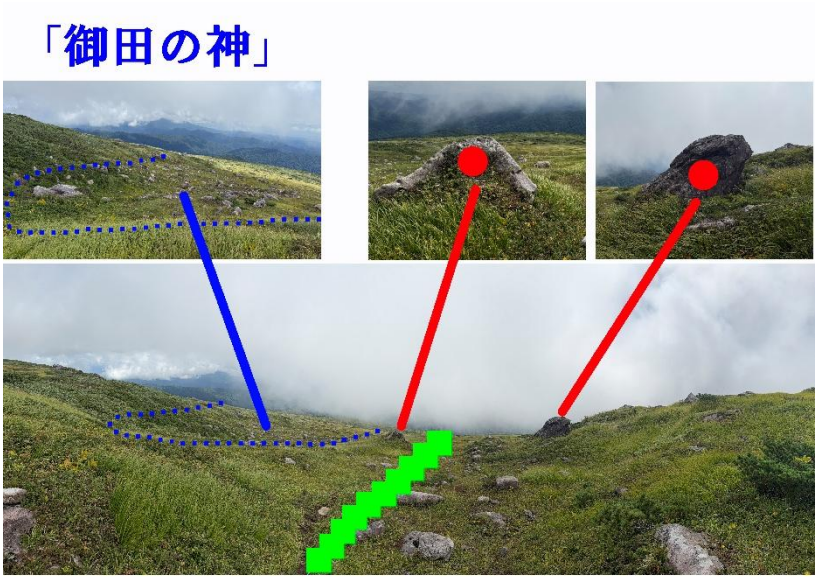


図－２

2023(R５)年10月8日(日)大沼単独と、2023(R5)年10月11日（水）～10月12日（木）片倉忠幸・松田秀孝と大沼の３人による調査、を踏まえて、「**御田の神**」の場所を特定出来たと思っている。

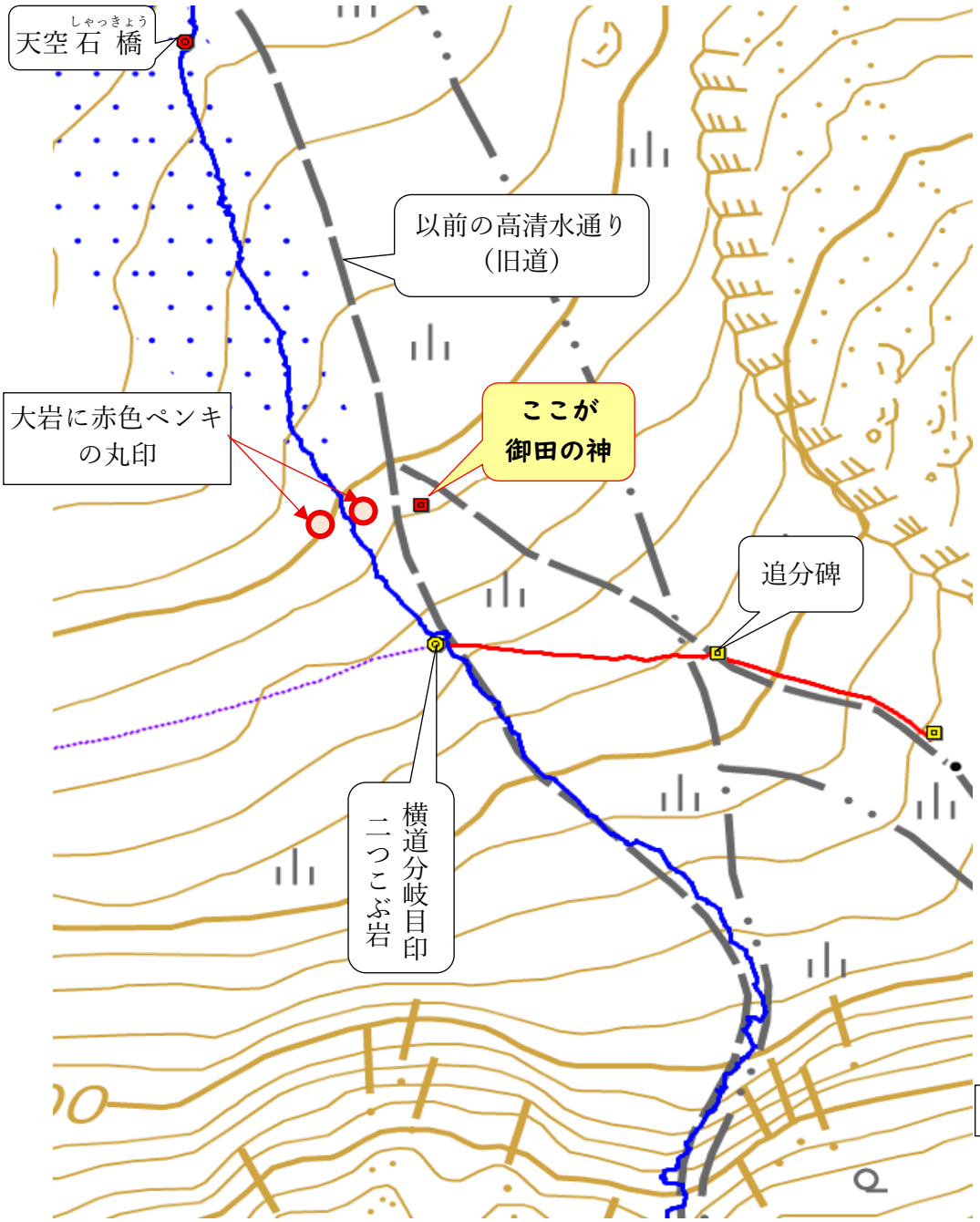
図－3は高清水通りを下る場合の位置関係であるが、本通り左右（東西）の大岩に赤色ペンキの丸印を描いた所があり、その東側下手が「**御田の神**」であろうと確信している。大岩への意図的なペンキが「御田の神」を指したのだろう。

図－4、以前の高清水通り（旧道）は掘れて、かつ所々藪化していることからとても歩き難くなっているが、この辺りは夥しいケルン状目印岩が連担している。「御田の神」を直接的に象徴する何らかの具体的な像、石碑類を確認していないが、五穀豊穣を差配する神が座（おわ）す神聖な場所の雰囲気がある。

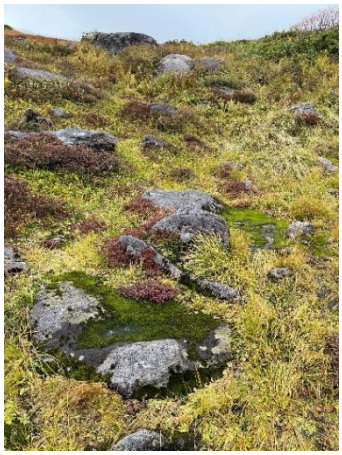


図－３

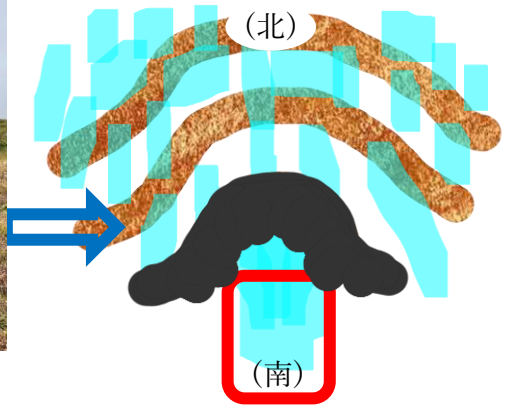
このエリアを南側から北方向を見ると、図－5のように壁状の地形に突き当る状況となる、まさに、田の神が山の神になって籠る場所を想起させる。むしろ「山の神」の名称に相応しいが、「田の神が（山の神となって）籠っている霊地」と観想されて来たのだろう。



図－4



二人の後方突き当りを下図にデフォルメ



図－5

遅い雪解けを待って顔を出す地形であることからは、「田の神」の方が印象深かったのかもしれない。なお、この地は人間姿形の陰部を観想させる。山の神（女）と田の神（男）が入れ替わるという信仰は全国的に見られ、最も一般的な時期は旧暦の３月３日と云われている。

（end）